

# 2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

## 学校経営方針(学力向上に関わる要点)

- 基礎的・基本的な知識・技能の習得とこれらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成をバランスよく図ると共に、タブレット端末の活用や、個に応じた指導の工夫・改善に努め、学力の向上を目指す。
- 体験的・課題解決的な学習を積極的に取り入れ、主体的・対話的な学習態度を育て、深く考え、粘り強く課題解決に取り組む子の育成を図る。
- 体育の授業を通して、体力の向上を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質・能力の育成を図る。

## 授業改善の重点

- ・「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させ、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業をデザインする8つの取組の中から、特に「見通しをもたせる導入」「価値ある対話の共有」「振り返りの設定」「ICTの活用」を重点とし、指導の充実を図る。
- ・体力向上委員会による「体力向上プロジェクト」や校内研究の取組を柱として、健康・安全に配慮した上で運動が苦手な児童も体を動かす楽しさを味わい、運動に関する意欲や技能を高める。
- ・日常的にchromebookを活用した学習を推進していくことで、児童のICT活用スキル向上を図る。
- ・保護者も含め、ゲストティーチャーや地域の教育的資産を活用し、体験活動、探究活動を行っていく。

| 各教科の指導の重点 | 国語科  | 音楽科  | 総合的な学習の時間の指導の重点  | 特別の教科 道徳の指導の重点   |
|-----------|--|--|--|--|
|           | ○単元や本時のめあてを提示して、授業の終わりにはまとめと振り返りをする。<br>○教材文や資料の提示では、ICT機器を活用し、より視覚的に有効な手立てを授業に取り入れていく。<br>○ペア・グループ・全体など、様々な形態で伝える場を設定し自分の考えを明確にもち、広げたり、深めたりする力を高めていく。<br>○自分の思いや考えを表現する力を高めるため、詩や日記など書く活動を定期的に取り入れる。  | ○音楽的な見方・考え方を育むために、音楽を形作る要素を掲示したり、児童の発言と関連付けたりする。<br>○表したい音楽表現ができていくかについて聴きあったり意見交換したりして、思考と技能が結びつく活動にする。<br>○今までの学びの積み重ねを生かして学習していけるように、既習曲と比べたり関連付けたりする。  | ○地域の素材を活用することにより、自然体験活動及び探究活動となるように心がける。思考を促すためには、ねらいやめあてが明確になっている必要がある。「何のための活動か」を必ず毎時間おさえ、取り組んでいく。<br>○単元のゴールイメージを活動ごとに必ず児童に提示する。<br>○調べ学習や発表ではICTを積極的に活用し、コンピュータを身近に感じ、生活の中で活用しようとする意識を高める。 | ○「第○回道徳」と黒板に板書し、ホワイトボードに1時間の流れを示すことで、見通しをもたせながら授業を行う。<br>○授業時間の中盤に主発問がくるようにし、自己を見つめる時間を十分に確保する。<br>○月に一回の全校道徳では、別業を基に、全校で共通の内容項目に取り組み、家庭との連携を図る。<br>○ICTを活用することで、子どもの意欲・関心を高める。        |
|           | 社会科  | 図工科  | 特別活動の指導の重点   | 外国語活動(3・4年)の指導の重点  |
|           | ○児童が興味・関心をもち、主体的に取り組んでいけるように見通しがもてる導入の工夫を行う。<br>○提示する資料の精選を行い、思考する時間の確保をする。<br>○教材によって、個別進度学習で学んだことの共有を通して、自身の学びを深め、見方を広げる活動を行う。<br>○ICT機能を効果的に活用して、社会的事象等について調べまとめる技能を高める。<br>○提示した観点に沿って学習の振り返りができるようにする。  | ○毎回授業の最初にめあてを提示し、授業の最後に振り返りを行うことで、見通しをもって取り組むことができるようにする。<br>○共同制作や鑑賞の時間を通して価値ある対話の共有の場をもち、図工的な見方、考え方を広げたり深めたりする。<br>○鑑賞活動や、基礎的な道具の扱い方の指導にICTを活用し、画像や動画で視覚的に伝わるようにする。  | ○集団づくりのまとめの時期として、学級活動(3)のキャリア教育(次年度の学年に向けた心構え)を考える機会を設ける。<br>○学級会形式の定着を図り、折り合う心地よさを味わえるような声かけを行っていく。<br>○学校行事(社会科見学や6年生を送る会)を活用し、めあてや見通しをもって自主的に活動できる時間を確保する。                                  | ○ALTとの会話やリスニング活動を多く取り入れ、聞き取ることから外国語での会話の素地を育てる。<br>○歌やチャンツなどを活用し、より自然なスピードやイントネーションで話せるよう発音指導をする。<br>○状況設定を具体的にを行い、実生活でも使える・使いたいと思えるような、意味のある会話活動に特化した指導を心がける。そうすることでより主体的に取り組めるようにする。 |
|           | 算数科  | 家庭科  |  |  |
|           | ○ICTを活用しながら、教材・教具を工夫し、児童が具体的な操作によって筋道を立てて考えられるようにしていく。<br>○チャレンジする姿勢が見られるように、児童の発言や活動に対して個に応じたプラスの評価をし、褒めたり、認めたりしていきながら指導法の工夫をしていく。<br>○児童が多様な考えを導き出せる課題を用意するとともに、児童の考え方を共有する時間を十分に設けながら、よりよい方法を発見できるよう「協同的探究学習」を取り入れる。<br>○既習事項の定着のために、ナビマなどを活用する。<br>○授業の最後に1時間の学習の定着を図るために、確認問題等を取り入れていく。 | ○一回一回の授業で完結させずに、前時の復習から本時の学習内容へとつなげ、学習の最後に振り返りを行うことで次時への課題を意識させる。<br>○自分の生活や実技の振り返り等で効果的にICTを活用する。<br>○家庭生活を見つめ直し、児童同士で改善点を共有し、よりよい生活とは何かを考え、深めていく。<br>○製作活動や調理実習を通して、生活に必要な技能習得のため、反復練習や教え合いの時間を確保し、技能を高める。   |  |  |
|           | 理科   | 体育科  |  |  |
|           | ○日常生活の中にある身近な理科について調べる活動を行い、理科が生活の中に根差していることに興味をもたせる。<br>○めあて、実験、考察のように流れをルーティン化することによって、見通しをもたせ、自分の考えを明確化させる。<br>○充実した実験から、理解を深める体験をすることによって、確かな知識・思考力を付けさせる。<br>○予想や、結果をふまえての考察をグループで話し合い共有することで、価値のある対話を実現していく。   | ○運動量確保のためには、授業の流れを教師・児童ともに把握していく必要がある。授業始めに、ホワイトボード等で1時間の流れを確認する。<br>○チーム種目を行っていく際にはフェアプレーを大切に指導を行っていくことで、運動の楽しさを味わわせる。<br>○体力向上のために、補助運動の充実を図る。<br>○個人課題について技術ポイントを伝え合うことで、自己の思考を広げ深め、課題の解決を目指す。  |  |  |
|           | 生活科  | 外国語科(5・6年生)  |  |  |
|           | ○思考・判断したことが残るよう振り返りをワークシートに記入するなど、活動を工夫する。<br>○教材提示では、書画カメラを活用することで、学習内容を明確にし、活動内容の見通しをもたせる。<br>○見つけたことや、感じたことをペア、グループ、クラス全体などで、共有する場をもち、自分の考えを明らかにしたり、友達の考えを知ったりする機会を設ける。<br>○各学年の年間計画を意識し、横断的な指導に努める。  | ○授業の最初に必ず今日の流れを説明してから始める。また授業の最後には今日習得した言葉や活動を振り返り、次時へつなげるようにする。<br>○ALTや地域ごとの英語にたくさん触れ、同じ言語でもいろいろな発音やイントネーションがあり、さまざまな話し方があることを伝える。そうすることで、間違えをおおせずに堂々と自分の言葉で伝えようとする態度を育成したい。<br>○聞き取る活動を多く取り入れ、より表現に親しみやすくし、児童が自信をもってアウトプットできるようにする。<br>○外国の文化や現状を知る機会を多く取り入れることで、多様性を受け入れることのできる、国際的な感覚を身に付けさせたい。また自国についても改めて考え、理解し、良さを伝えるために外国語を活用できるように指導内容を工夫する。<br>○必然性・実用性のある会話場面を設定し、児童が進んで話しかけられるよう工夫をする。<br>○定期的にリモートで外国の学校と交流をし、習熟表現を生かした会話の実践をする。 |  |  |

|             | 見通しをもたせる導入   | 価値ある対話の共有   | ICTの活用  |
|-------------|--|---|---|
| 本校の授業改善に向けて | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の提示の工夫。</li> <li>・学びの地図</li> <li>・具体的な資料の活用・提示。</li> <li>・児童に挑戦意欲を抱かせる、場の工夫。</li> <li>・振り返りの活用による、次時への期待と見通し。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に対して、比較・検討・分類・統合・関連付けしながら、児童・生徒に多角的に捉えさせる。</li> <li>・一人一人が考えをもつ時間を設定する。</li> <li>・児童の発言を価値付ける。</li> <li>・児童の考えを共有する。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT機器を活用した授業作り</li> <li>・ICT教育推進モデル校として培ってきたことを活かし、全児童配布のクロームブックの活用を推進。</li> <li>・具体的な姿から改善点を模索。</li> <li>・多様な意見の交流を推進。</li> <li>・個別最適な学びの推進。</li> <li>・家庭学習においても、ICTを活用したドリル学習など、個に応じた学習による理解の定着。</li> </ul> |